

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農業使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成23年 5月25日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 施設果菜類 温度管理の徹底、草勢維持、病虫害防除に努めましょう！
- ◆ 露地果菜類 活着促進のため、土壤水分と地温を確保しましょう！
- ◆ 雨よけほうれんそう ハウスの換気に注意して適切なかん水を心がけましょう！
- ◆ 露地葉菜類 害虫の発生状況に応じた早めの防除を！
- ◆ 明け方の冷え込みが予想されるときは夕方早めにハウスを閉め、必要に応じて補助暖房等を活用しましょう！

## 1 生育概況

- (1) 施設果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、低温経過の影響により出荷開始時期が例年より遅れており、半促成きゅうりでは節間が短いほか雌花が多く草勢低下が懸念されます。  
また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマトでは生育が例年より遅れており、ピーマンでは定植時期の違いにより生育差がみられます。
- (2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンは例年と同様5月下旬から定植が始まっているところもありますが、育苗期間中の低温や不安定な天候の影響により、苗配布や圃場準備が遅れ、定植が遅れているところもみられます。
- (3) 雨よけほうれんそうの生育は回復してきていますが、震災や強風の影響による遅れが残っている地域があります。ハウレンソウケナガコナダニによる被害が散見されています。
- (4) 県中部のレタスは概ね順調に生育していますが、県北部では定植の遅れによる影響が見られます。キャベツは定植作業、生育とも概ね順調です。
- (5) 露地普通作型のアスパラガスは県北部で収穫が始まっており、立茎栽培では春芽の収穫が間もなく終了します。ねぎは定植が順調に進み、4月定植では1回目の土入れが終了しています。

## 2 技術対策

### (1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。水田転作の場合は、水路等の点検整備を行い、ほ場外からの水の侵入防止に努めるとともに降雨後の排水を促すための明きよと排水口の設置、高うね栽培とします。長時間滞水するなど排水不良が十分改善されない場合は、耕盤破碎や補助暗きよの設置も検討して下さい。

排水良好なほ場では、かん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が現れます。県内各地で簡易点滴かん水装置の導入も進んでいますので、かん水設備の設置・導入をぜひ検討してください。

## (2) 施設果菜類の管理について

これまで、生育遅れや徒長、葉焼けなどの生理障害が見られていますので、前号を参照して温度管理の徹底に努めてください。

今後、気温の上昇とともに収穫量が増加してきます。長期安定生産に向けて、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。特に雨よけトマトでは5～6段以降急激に草勢を低下させるケースが多いことから、草勢低下(生長点が細くなるなど)の兆候が見える前から早めの追肥実施、低段の着果制限を行うなど、草勢維持管理を徹底しましょう。

また、近年6月の好天時に尻腐れ果の多発や、急激な気象変動による生長点の萎れが発生する傾向にあります。着果量も増える時期となりますので、生育と天候に見合ったかん水をしっかり行うようにして下さい。

害虫では、アブラムシ類やアザミウマ類、ハモグリバエ類などの害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。

病害では、日照不足が続くと、灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなります。特に、半促成作型では過繁茂になりやすい時期で、低温時にハウスを密閉すると、湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、換気を徹底し風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。また、細菌病、ウイルス病の感染拡大を防ぐため、わき芽取りは傷口が乾きやすい晴天時に行いましょう。

## (3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

### ア きゅうり

生育初期に十分に根群を発達させることが、長期安定生産を実現する重要なポイントです。

初期生育を良好にするためには、防風対策をしっかりと行うとともに、土壤水分が適湿な状態でマルチを張り、15℃以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

定植作業は晴天日を選んで行い、深植えは避け、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するとともに、定植後天候不順の場合は液肥を薄めて株元に施用するなど活着を促すようにします。また、定植直後の防風、保温対策として、ポリキャップなどの被覆資材の利用が効果的です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～10節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を2～3節上げ、高さ35～40cmまでの雌花や側枝は除去し、草勢の確保に努めます。6～8節から発生した側枝は1節摘心、それ以上から発生した側枝は2節摘心、孫枝は1節摘心を基本とします。

梅雨時期は、「黒星病」「斑点細菌病」「べと病」を重点とした薬剤を選択し予防散布に努めますが、最近、一部地域で黒星病対象薬剤の耐性菌が発生している事例がみられますので、薬剤散布の効果が見られない場合は普及センターに相談してください。

## イ ピーマン

トンネル栽培では、日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花等）が発生しやすいので、被覆資材を開放して換気を行います。有孔フィルムは、最低気温が17℃を超える頃を目安に除去しますが、低温が続く場合は被覆期間を延長します。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は過繁茂の原因となりますので、主枝となる枝を4本残して整理するとともに、第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとり、誘引後はふところ枝が過繁茂にならないように剪除します。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

### （4）雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気を十分行うとともに、適用のある殺菌剤の予防散布を心がけてください。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、土壌消毒の実施を検討しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となりますので、抽台しにくい品種を用いることが基本になります。生育が停滞しないように、播種前の十分なかん水、温度管理を徹底するとともに、乾燥する場合は、生育中（本葉3～4枚以降）かん水も行うようにしましょう。

ハウレンソウケナガコナダニによる被害は全県的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

- 春～夏には堆肥の施用を控える。
- 農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。
- 被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。
- 播種前に、地下5cmの地温が45℃3時間継続するように、ビニール被覆を行う。

アブラムシ類の発生が見られています。現在ハウレンソウケナガコナダニに多く使用されている薬剤はアブラムシ類に効果がないので、発生が見られたら効果のある薬剤で適切に防除しましょう。

### （5）露地葉菜類の害虫防除

#### ア キャベツ

コナガの重点防除時期になるので、幼虫の発生を確認したら早めに防除を行いましょう。また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しましょう。

ヨトウガについては、今後の発生予察情報に留意し、適期防除開始に努めましょう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しましょう。

## イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけましょう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

### 【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



図1 ナモグリバエ幼虫の食入程度

## （6）アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を予防散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

## （7）ねぎの栽培管理

定植後1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。乾燥でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけましょう。

ネギコガの発生は少ない傾向にありますが、今後の発生消長に留意し早めの防除を心がけましょう。

**春の農作業安全月間実施中！** [ 4月15日 ]  
[ ~6月15日 ]  
農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。